

地方議会評価モデル

第1回リーダー・サブリーダー会議 会議結果

令和4(2022)年4月14日(木) 13:30~16:50 第1委員会室

《出席者》

井坪議長(アドバイザー) 山崎副議長 古川運営PJチーフ 永井運営PJ統括
A班 小林リーダー 市瀬サブリーダー B班 清水(優)リーダー 佐々木サブリーダー
C班 岡田リーダー 下平サブリーダー 日本生産性本部 鎌田担当課長 田中研究員
事務局 和泉局長 筒井次長 近藤次長補佐 熊谷庶務係長 丸山

【○説明事項 □意見 ★決定事項 ◎検討事項】

○会議の前段で、4月12日開催の議会改革推進会議において決定した地方議会評価モデルの組織体制に関して、資料No. 1「地方議会評価モデルの取組体制」に基づき事務局が説明を実施。リーダー・サブリーダー会議の構成と事務局の担当者を確認。

1 議会プロフィール作成の目的について

【日本生産性本部からの説明】

○議会プロフィール作成の目的は以下の3つ。
①議会に期待される役割(ミッション)と議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)を明らかにしていく。
②現状を的確に把握し、評価する。今後の議会を取り巻く社会環境の変化、外部要因を考慮し、最終的に理想的な姿に近づくためにどのようにしていったらいいかを見つける。
③最終的に理想的な姿に近づくための行動を考える。
(参考 地方議会成熟度評価モデルガイドブック P10~)

2 議会プロフィールの作成方法について

【日本生産性本部からの説明】

○基本データについては客観的に議会を見るためのもの。
○飯田市自治基本条例第6章「市議会の役割」に記載されている事項を「1. 議会に期待される役割(ミッション)」として転記いただいても良い。
○「2. 議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)」は、議会改革の到達点、将来像を記載していただく。明文化されたもの、口伝のものなどがあれば記載しても良いが、どのような議会となれば住民の福祉の向上につながるのかを議員の皆様で話し合いをして決めていただきたい。

- 理想的な姿として何年先を目指すかについては、飯田市の総合計画、選挙のタイミングを視野に入れながら考えていただきたい。
- 「3. 現在の姿」については、飯田市議会が作り上げてきた議会からの政策サイクルの構築、議会運営上の独自性などを点検し、確認していただきたい。
- 良いものは良いとして評価し、課題として残っているもの、弱みであり改善できるところを確認し、現状を整理していただく。
- 「3. 現在の姿」は4つに区分されているが、4つの枠にとらわれずに、他の視点からも記入していただいて良い。
- 「4. 今後の議会を取り巻く社会環境の変化」については、外部環境として捉えて、客観的な資料を用いて記入していただく。飯田市の場合は、「地域や住民ニーズの変化」として、リニア中央新幹線の開業などを書いていただいても良い。
- 「5. これから取り組むべき課題」としては、将来の理想的な姿からバックキャストを行い、現在何をすべきか方向付けをしてから、取り組む活動目標へと進む。
- 「5. これから取り組むべき課題」から「6. 通任期（4年間）の活動目標・アクション」に至る際に、課題解決に当たっての原因の仮説を立てて検証し、対策を考えていく過程を経ることになる。
- 「6. 通任期（4年間）の活動目標・アクション」は、5で挙げた課題を整理し、課題を乗り越えていくための具体的な方法を考えていく。

(参考 地方議会成熟度評価モデルガイドブック P11～)

【運営PJ統括からの説明】

- 飯田市議会議会改革・運営ビジョン（P12～13 議会議会改革・運営ビジョンのポイント）と「2. 議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）」の対応関係を確認
- 飯田市自治基本条例（「第6章 市議会の役割」（第22条～第27条））及び「議会改革・運営ビジョンの実現に向けた取り組み（一覧）」と「3. 現在の姿」の対応関係を確認。
- 「議会プロフィール」作成のステップは、ガイドブック（P14）どおりではなく、取り掛かりやすい項目から取り掛かってもらえばよい。

【出席者からの意見等】

- 「3. 現在の姿」の項目として、『課題・解決すべき点』という項目を追加した方が各議員の意見が出やすいのではないか。
- 「議会プロフィール」を作成していく過程での議員間の対話が飯田市議会の力になっていくため、まずは取り掛かってみるのが重要。

3 成熟度評価の目的と評価方法について

【日本生産性本部からの説明】

- 成熟度評価は、議員個人ではなく、議事機関としての議会の評価を行う。
- 組織マネジメントの視点を参考にしながら、地方議会成熟度評価モデルを作成した。
- 成熟度評価に正解、不正解はなく、評価の結果が議会の優劣や正誤を意味するものではない。市民に説明する際は、評価の理由や根拠が重要となる。
(参考 地方議会成熟度評価モデルガイドブック P 3～)
- 一つ一つの活動のプロセスだけに目を向けるのではなく、議会活動全体のマネジメントを重視し、議会活動に横串を通して全体として連動させる視点で捉えることで、いわゆる「改革疲れ」や形骸化を招くことを防ぐ。
(参考 地方議会成熟度評価モデルガイドブック P 7～)
- 議会プロフィールの作成と地方議会成熟度評価モデルを説明する際の重要な視点
①住民本位 ②独自能力 ③チーム議会 ④社会との調和
(参考 地方議会成熟度評価モデルガイドブック P 8～)
- 議会としてマネジメントを考える上で必要な5つの視点
「視点1 戦略プラン」方向性があるか、具体的な取組におちているか
「視点2 政策サイクル」議会活動の核となるような制度、条文などがあるか
「視点3 条件整備」議会として高いパフォーマンスを継続的に発揮するための条件整備ができているか
「視点4 信頼と責任」社会的責任や、議決に対する説明責任を果たしているか
「視点5 ふり返りとまなび」活動をやりっ放しではなく検証ができているか
(参考 地方議会成熟度評価モデルガイドブック P 17～)
- 成熟度評価は、ワークシートを用いて個人が作成し、グループ討議を経て、全体での共有化を予定している。DXの時代なので、オンラインでフォームを用意して議員が参加するなどの方法も検討したい。

4 今後のスケジュール、進め方等の確認

【日本生産性本部からの説明】

- 別添資料「対話の基本を確認してみよう！」を確認し、ロールプレイングを実施。

【議会事務局からの説明】

- 資料No. 2 「令和4年度地方議会評価モデル 年間スケジュール」により今後のスケジュールを確認。
- 資料No. 3 「地方議会評価モデルを円滑に運営していくための申し合わせ事(案)」を確認。
- 「議会が実現すべき理想的な姿(ビジョン)」の時間軸についての協議を依頼。

会議のまとめ

会議の結果、決定した事項

★議会改革推進会議でも議論を行ったが、自由な討議を重視するため、当面グループ討議は非公開を原則とする。

会議の結果、検討を要する事項

- ◎「議会プロフィール」の飯田市版の統一した書式を作成するか否かは、運営PJ統括と議会事務局とで相談して対応する。
- ◎「2. 議会が実現すべき理想的な姿（ビジョン）」の到達点は、飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン2028」の期間満了が参考となる、改選期と総合計画を踏まえて6年後の2028年が適当であることを各グループ内で提示し、確認する。
- ◎議会プロフィールの作成、「議会改革・運営ビジョン」及び「ロードマップ」の見直しを行うと、議論の行きつく先が飯田市自治基本条例の改正に至る可能性もあり得る。
- ◎4月25日の週に、グループ毎のオリエンテーションを開催できるよう、リーダー、サブリーダー及び議会事務局担当者で調整を行う。